

2025年度学校評価【西南学院中学校・高等学校】

建学の精神および学校法人西南学院の使命

学校法人西南学院は、「西南よ、キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人格を育てることを使命とする。

建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」という言葉は、Lで始まる4つの英単語を用いて表され、本校では、チャペル講話をはじめ様々な教育活動においてこの4つのLを取り入れて具体的に実践している。

- ・L i f e（生命）：すべての人命を積極的に尊重すること
- ・L o v e（聖愛）：真の神を礼拝し、他者に奉仕すること
- ・L i g h t（光明）：知なきところに真理の光を掲げること
- ・L i b e r t y（自由）：責任ある自由をもって行動すること

学校法人西南学院のビジョン

- ①人間育成：キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践
- ②教育研究：確かな教育力と新たな知と価値の創造
- ③国際感覚：異文化を受容し、行動できる国際性の修得
- ④地域貢献：進化する福岡とともに歩む学校としての自覚と協働
- ⑤経営基盤：永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

西南学院中学校・高等学校における教育の目標

- ①かけがえのない“L i f e（いのち）”を大切にする
- ②“L o v e（聖愛）”の実践を通して、隣人に仕える
- ③“L i g h t（世の光）”として、平和構築に貢献する
- ④真理を探求し、真の“L i b e r t y（自由）”を得る

西南学院中学校・高等学校における学校評価の進め方と2025年度の重点目標

建学の精神を堅守しつつ、生徒一人ひとりの個性と適性を尊重した教育を目指す。また、国家、地域、年齢、言語等を越えた、多様で普遍的な価値観に対応できる平和を実現する人の育成を継続するとともに、ポストコロナ時代における学びのニューノーマルを想定し、将来に向けた健全な財政計画に基づいた教育体制の点検と整備を進めることを目指す。

ビジョン		中長期事業計画					2025年度事業計画		担当部署	2025年度事業報告		
		NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2025年度の具体的計画内容		2025年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
人間育成	①平和をつくりだす人間教育 ②隣人愛の理解と実践 ③奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成	1	「平和をつくりだす人間教育」「キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践」の反映と浸透	1	中・高	チャペルやミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切にする教育や「人権教育」の充実、また、「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実	人権・「同和」学習の継続的な実施と充実	チャペルやミッション・ウィークを通じて、自他に与えられたいのちの尊さを深く理解する機会を設け、内容の充実を図る。	宗教部	毎週のチャペル、前後期ミッションウィークを校内外の諸講師の協力を得て実施することができた。大学のアメリカワークキャンプの報告や「韓国の旅」、中2サマーチャレンジの報告チャペルなど生徒・学生年代の言葉・思いを共有する機会の創出にも務めた。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。
				2	中・高	中学3年沖縄修学旅行や「韓国への(からの)旅」等の交流プログラムによる平和学習の充実	平和学習の継続と充実	事前学習プログラム及び事後の報告の刷新、充実を図り、沖縄修学旅行での民泊、韓国でのホームステイ、フィールドワークを通しての平和学習と交流を継続する。	宗教部	戦後80年の節目の年に「韓国への旅」を実施し、17名がホームステイ、ソウルフィールドワークを柱とする3泊4日のプログラムに参加し貴重な学び・交流ができた	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。
				3	中・高	生徒が主体的に企画・運営するチャペル企画やボランティア活動の充実	生徒が主体的に参加するチャペル活動や奉仕活動の実施と充実	路上生活者や生活困窮者への支援物資受付など、生徒が参加可能なボランティア活動を計画・実施し、内容の充実を図る。2025年8月に開催される日本YWCAの全国カンファレンスへの生徒の参加を奨励する。	宗教部	路上生活者や生活困窮者への支援物資を受け付け、関係団体に寄託した。	B	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。
				4	中・高	地域の教会や他のキリスト教主義学校との連携によるプログラムの充実	外部組織との連携強化によるチャペル等の充実	地域の教会の牧師や他のキリスト教学校の教員などにチャペルでの協力を依頼するなど、連携に継続して努める。	宗教部	聴覚に障害をもつこどもの教育、国内外での平和の実現を目指す活動に取り組む卒業生などの助けを得て、社会の諸課題を知り、考える機会の提供に努めた。保護者バイブルクラスについても母の会の協力を得て2回実施した。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。
	2	社会の担い手となるサーバントリーダー育成プログラムの充実	5	中・高	生徒に対するサーバントリーダー育成のための教育プログラムの充実	サーバントリーダー育成プログラムの創設・展開	校内外で実施する「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」活動を通じて、生徒が他者に仕え、配慮しながら行動することの実践機会を設ける。	宗教部	校外での募金(クリスマス、震災わすれない募金)は荒天のため見送らざるを得なかったが、文化祭での募金や売上を諸団体に寄付する活動は実施することができた。	B	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。	
			6	中・高	モラル・ルールに対する意識の向上	社会ルールの遵守に向けた指導徹底および意識啓発プログラムの充実	生徒会による選挙公報活動や地下鉄乗車マナーアップキャンペーン活動への協力、被災地支援活動を今後も継続するとともに、地域からの意見や要望を収集するための方策について検討する。	生徒指導部	震災忘れない募金は悪天候のため残念ながら実施できなかったが、宗教部が中心となり、代替の募金を検討した。	B	概ね達成できている。	

ビジョン		中長期事業計画					2025年度事業計画	担当部署	2025年度事業報告			
		NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値		2025年度の具体的計画内容	2025年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
教育研究	①一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実 ②総合的な「知」を志向した教育機会の提供 ③社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化	1	カリキュラム・教科教育	1	中・高	教科教育の充実	生徒の学力向上と幅広い進路保障の確立	中学校・高等学校ともに新学習指導要領に対応して編成されたカリキュラムを計画的に実践する。さらには、中学校・高等学校の各教科においてカリキュラム移行後の教育内容を検証し、教育内容の更なる充実に向けた検討を行う。	教務部	新学習指導要領にはほとんどの教員が対応できている。学校全体においても科目の目標のより効果的な達成のために単位数の増減の検討を行おうとした。	B	各教科において授業内容や課題の共有はできている。課題の解消については、未達成の部分がある。
		2	進路指導	3	中・高	キャリア教育(進路指導)体制および手法の見直しと検討	生徒の特性や希望に即したキャリア教育指導体制の確立	中学校・高等学校ともに、現在行っている各種進路説明会や大学説明会、2022年度より実施されているサマーチャレンジなどを継続的に実施し、その効果を検証するとともに、キャリア教育の更なる充実に向けた今後の基本方針について検討する。	進路指導部	説明会を生徒・保護者対象にそれぞれ行った。他学年については、例年通り進路説明会や大学説明会を実施した。サマーチャレンジについて、多くの生徒が参加してくれたため、さらなる充実を図る必要がある。	B	中学のサマーチャレンジ(職場体験)は広報部に頼る部分が大きかったため次年度以降は進路指導部で運営できるように運営していきたい。
		3	特別支援	4	中・高	特別支援体制の整備と充実	生徒の状況に応じた教育支援の確立	支援を必要とする生徒の情報を共有し、様々な支援体制の充実に向けた校内研修を行い、関係機関との連携強化に努める。	総務部	支援を必要とする生徒情報の共有は校務支援システムの活用などもあり充実している。ケース会議も実施している。関係機関との連携については、一部生徒には実施されているが、全員に対応しているとは言えない。	B	一部未達成である。
		4	総合的な「知」の探究	5	中・高	外部講師による講演会やチャペル講話の充実・強化	幅広い知識の修得による知的好奇心の醸成と精神的成長の促進	社会の諸方面で多彩な活動をしている方を招き、生徒が様々な新しい見解や知見に接する機会を増やす。また、そのための情報収集に努める。	宗教部	戦後80年特別企画として国内在中の唯一のホロコーストサバイバーによる講演会、関連のパネル展を行った。ベシワール会から元ワーカーの方を迎えて中村哲先生のお働きについてお聞きした。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた。
		5	教員の資質向上	6	中・高	研究授業の積極的展開	教員のスキルアップに向けた研究授業制度の確立	各教科を中心に、研究授業や研究発表を適宜実施して教科教育の更なる充実を図るとともに、自主的な研究発表や勉強会への支援に向けた研修を検討し、関係機関との連携強化に努める。	教務部	各教科において、個人で研究を実施はできているが、今年度は未実施だった。	B	未達成の部分が多い。

ビジョン		中長期事業計画						2025年度事業計画	担当部署	2025年度事業報告		
		NO	ビジョン実現に向けた課題	通しNO	対象	アクションプラン	目標値	2025年度の具体的計画内容		2025年度の具体的実施内容	評価	評価の理由
国際感覚	①グローバル社会の担い手の育成	1	グローバル社会の担い手の育成	1	中・高	多様性を認め合う共生社会の形成に向けた国際交流プログラム(海外研修・留学生受入を含む)の充実	国際交流の積極的な展開によるグローバル教育の充実	訪豪研修旅行(中学校・高等学校)、ベトナム研修旅行(高等学校)、アメリカ研修旅行(高等学校)、イギリス研修旅行(中学校)、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプ、フィールドトリップ・イン・イングリッシュ、ターム・年間留学制度の実施と検証を継続する。また留学生の受入れについても更に充実を図る。	総務部 教務部	2年前より中高それぞれで実施された訪豪研修旅行が今年度も行われた。また、高校では訪米研修旅行を春休みに行き、さらに高校生は夏休みにカンボジア研修旅行を実施予定だったが、情勢悪化のため未実施となった。中学生は春休みにイギリスへの研修旅行も実施された。また、今年度は春休みにフィールドトリップを実施した。その他、インターナショナル・デイ・キャンプは、以前行っていたピースメイキングプログラムの内容のレベルを含むものとした。	B	受け入れに関しては以前と変わらない形になっており、それを検証して行くにとどまっている。
	②異文化理解と外国語教育の充実	2	英語教育のさらなる強化と拡充	2	中・高	全生徒に対する英語力の全般的な向上	英語を活用したコミュニケーション能力の向上	オンライン英会話授業の運用状況と効果測定について、英語科を中心に検証し、必要に応じて運用計画の見直しを行う。また、生徒の更なる語学力向上のための方策について検討する。	教務部	オンライン英会話の効果については検証を行っているが、現在のところは現状のまま実施した。	B	運用計画の見直し・検討については実施していない。
	③キャンパスの国際化の推進			3	中・高	GTEC等の英語力の学外指標の導入	大学入試対策に合わせた英語力の向上	英語外部検定試験(GTEC)を計画的に実施し、実施後の検証を行うとともに、英語外部検定試験の導入と活用に基づく入試制度について、情報収集と分析を継続して行う。	教務部 進路指導部	GTECについて、昨年度の反省を生かして、今年度より高校1・2年生は全員受験、高校3年生は希望制の受験とした。また、英検については、公開会場での受験を学校から案内するようにし、積極的に受験をするように促した。中学校については、中学入試の翌日の平日に実施した。	B	中学、高1・2にとっては4技能の能力を測る上で大切なテストであるためしっかりと取り組んでいるが、高校3年生は検定試験の要素が強いいため、欠席者が増加している点が問題である。
地域貢献	①地域社会との協働	1	地域における貢献活動	1	中・高	ボランティア活動やイベント等の地域貢献活動・地域福祉活動の充実	地域貢献活動の充実に向けた組織と制度の整備	校内外で実施する「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」活動を通じて、生徒が他者に仕え、配慮しながら行動することの実践機会を設ける。また、本校からの出前授業や一般中学生の本校訪問、PTA学校訪問の受入等、地域住民・保護者への情報提供を目的とした活動を今後も継続し、参加者からの意見や要望を収集するための方策について検討する。	宗教部 総務部 生徒指導部	12月の「クリスマス街頭募金」、「3月の震災わすれない募金」を実施し、お預かりした額をUNHCRをはじめ、国内外の諸課題に取り組んでいる諸団体に送呈した。本校からの出前授業や中学生の体験入学、PTA学校訪問の受入に関しては昨年度より多く実施することができた。行事ごとにアンケートを実施することにより、参加者の意見や要望を収集することができた。	A	現在の取り組みを継続するとともに、プログラムの検証や改善に取り組むことができた
	②国際交流都市福岡への貢献			2	中・高	災害発生時の避難場所提供等の防災協力体制の充実	地域防災の充実	本校近隣の地域住民に向けた防災協力体制(防犯対策や交通安全対策を含む)や具体的内容、情報共有のあり方について近隣の青少年育成協議会から情報を得ながら継続して検討する。	総務部 事務室	西南学院小学校と共に、地域の協議会に積極的に参加し、防災協力について具体的な内容、情報の共有を行うことができた。地域住民との信頼関係を築くことができた。	A	概ね達成することができた。
	③地域に開かれ、地域に貢献する空間づくり	2	地域住民との連携	3	中・高	百道浜自治協議会との連携強化	連携のための組織および制度整備による地域との関係性の向上	地域との連携に向け、自治協議会関係者との情報交換や懇談、地域住民からの意見や要望を収集するための方策について検討する。	総務部	地域の自治協議会に積極的に参加し、地域の情報収集や地域住民からの意見を聴取することができた。	A	概ね達成することができた。
経営基盤	①経営体制の充実・強化 ②健全な財務基盤の確立 ③社会的責任の遂行	1	運営管理体制の強化	1	中・高	危機管理体制(災害対応・施設強化を含む)の充実・強化	危機管理体制および設備・機器の整備による生徒・教職員に対する安全管理の向上	危機管理マニュアルの整備や防災備蓄計画についての検討を継続する。	総務部 事務室	危機管理マニュアルについては、整備検討の段階であり、整備までは至っていない。防災備蓄計画は策定し会議体で周知している。	B	危機管理マニュアルを作成し、短いスパンで更新を重ねていく体制を作る必要がある。